

1 1月上旬

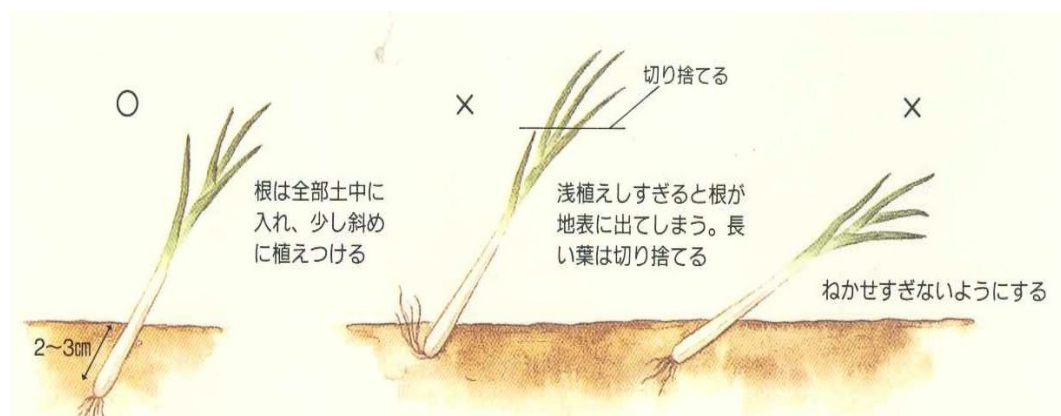
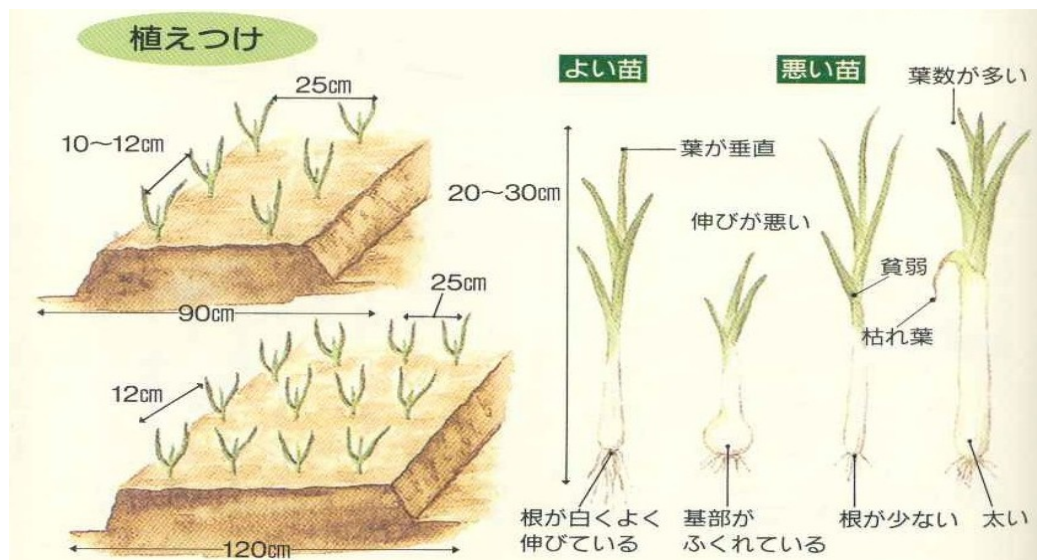
タマネギはよい苗を選んで植え付ける

原産地は中央アジア、生育適温は10～15℃で、25℃以上になると順調に育たなくなります。

タマネギが肥大するには、15～20℃の温度と長日条件が必要です。

タマネギ栽培の成功のポイントは、植え付けときの苗の大きさです。草丈20～25cm、太さ7～8mm程度のものを選ぶこと。（鉛筆やタバコの太さ）逆に極端に細い苗を植えると凍害に負けることが多いので、植え付け適期の苗を選びます。

また、窒素過多あるいは、肥料切れ、冬期の過乾燥だと、とう立ちしやすくなる。



1 1月中旬

いちごの栽培（定植）

1 作型と品種

(●マルチ ◡トンネル ○親株定植 ×小苗仮植 △定植 □収穫)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
トンネル栽培	●	◡	○	×	△								宝交早生 さちのか 紅ほっぺ
露地栽培		●	○	×	△								

2 栽培上の注意点

- ① 根茎が比較的浅いため、乾燥や多肥に対する抵抗性は弱く、保水性、通気性が良好で、弱酸性の壤土～埴壤土が適している。
- ② イチゴは果菜類の中でも特に、苗の良否が収量に及ぼす影響が大きく、悪い苗を用いた場合、定植後の管理を如何に上手にしても、7～8分作しにならない。

3 肥 料

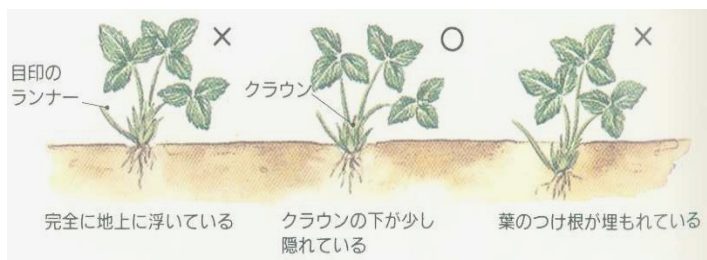
元肥に完熟堆肥 3 kg、セルカ 100 g、苺化成 250 g を全面に施す。

4 定 植

10月下旬～11月上旬に、苗の根鉢を十分つけ、植え穴を大きく掘り、深植にならないように 千鳥に植える。

株元についているランナー片を畝の内側に向けて植えると、花が外側に出てくるので管理がしやすくなる。

植え付け後十分灌水し、葉の縁に露を持つまで灌水する。また、マルチをするまで土が乾かないように灌水する。



5 追 肥

植え付け2週間後に1回目、11月下旬～1月上旬に2回目の追肥をする。1回目化成肥料(15. 15. 10) 40 g/m²、2回目30 g/m²施用する。



6 葉かき

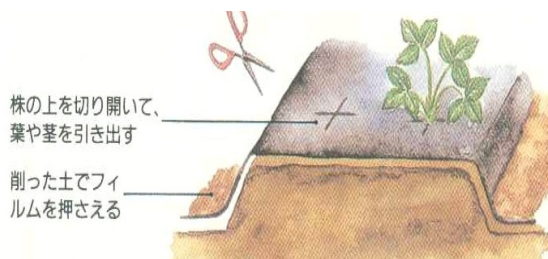
冬の間は、枯れた葉だけを取り除いておく。植え付け後に伸びてくるわき芽は花を着けることがあるので、残しておく。

7 マルチ

3月頃に地温の上昇と雑草の発生、果実の汚れを防ぐため、黒色ポリフィルムでマルチをする。

する前に畝の中央部をやや高くカマボコ型にし、畝が十分湿っている状態でマルチをする。

マルチをしてから新葉が生育し始めたころ、古葉や下部から発生するわき芽を摘除する。



1 1月下旬

ラディッシュの栽培（二十日ダイコン）

1 作型と品種

（○播種 〇トンネル被覆 □収穫）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種
春どり		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	コメット、レッドチャイム、さくらんぼ、ホワイトチェリッシュ、雪小町 紅白、ロングスカーレット
初夏どり				〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	
秋どり								〇	〇	〇	〇	〇	
冬どり	〇	〇									〇	〇	

2 栽培上の注意点

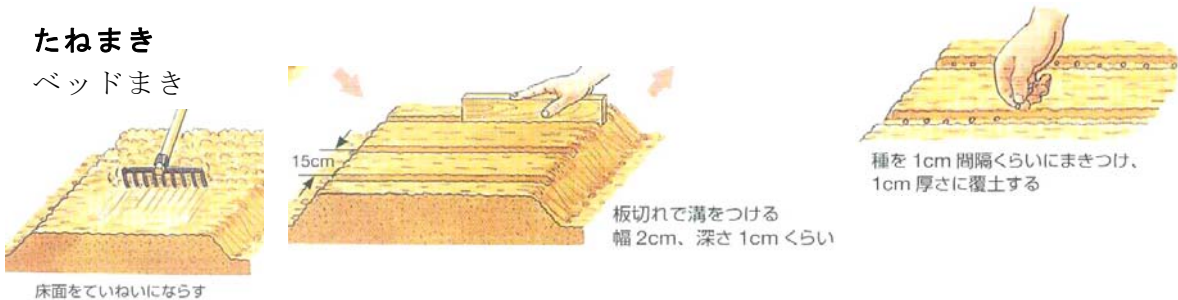
- ① ダイコンと同じく、冷涼な気候を好みます。
- ② 根は小型で、生育日数が短くて栽培できるので、作期の幅が広がります。
- ③ 夏の高温時の栽培は根茎の乱れが大きい。
- ④ 葉色を見ながら少量つつ追肥を行います。

3 うねづくり・本田施肥

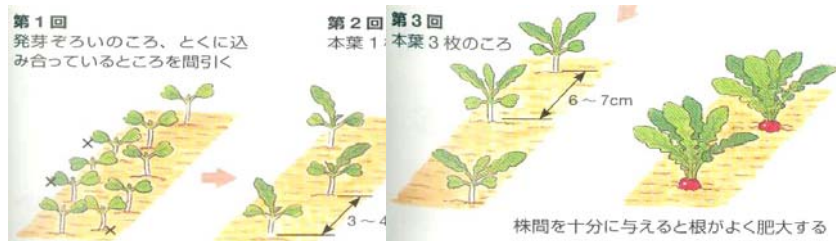
定植の15日前に、完熟堆肥3kg/m²とセルカ100g/m²、元肥として化成肥料（14・10・10）80g/m²、総合ミネラル補給肥料40g/m²を全面に施し、耕耘後、畝幅120cmにします。

4 たねまき

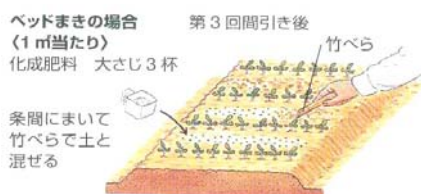
ベッドまき



5 間引き



6 追肥



<不良根の原因>



7 収穫

